

Dappe

地域おこし協力隊の鋸南ぐらし

11



うっちゃれ、シティライフ。

写真×復興



新宿でのチャリティーイベントにて。

こんにちは、地域おこし協力隊の室井です。
台風被害を受けて、南房総エリアに拠点をもつ二人の写真家と復興への道のりを写真で応援したく、「Picture for donation」をはじめました。
主にイベントやウェブサイトで写真を販売して、その価格の50%を南房総の復興活動団体へ寄付させていたでいます。残りの50%の経費は制作費、印刷料、ウェブ運営費等に使用させていたでいます。

PICTURE FOR
DONATION

WEBもよかつたら
見て下さい！



今回の被害が大きくニュースなどで取り上げられたことにより、「鋸南町」という名前を今まで耳にした事がなかった人々にまで、広く知れ渡ったと思います。
ですが被災地としてだけでなく、鋸南町の魅力も同時に知ってほしいと思いました。
今の自分の役割は、写真を通じて風景や人の魅力を伝えることです。そういう思いから「Picture for donation」のチームで写真展を開催することにしました。是非見に来ていただいで、「やっぱりここはいいところだよね」とお話し出来たら嬉しいで。



写真家の川村さん（左）と飯田さん（右）。



Dappe

発行元 鋸南町地域おこし協力隊
住所 AKARI(地域おこし協力隊拠点)
〒299-1902
千葉県安房郡鋸南町保田66-1
執筆 黒澤徹 清水多佳子 室井翼
編集 室井翼

写真展「望想 -Boso-」
開催期間：12月5日～15日
場所：ギャラリー&スペース MOMO
南房総市岩糸 1093



こんにちは、地域おこし協力隊の清水です。
空き家になっていた建物、「フアッション館フナト」（鋸南町保田）が、11月20日から新しい施設として生まれ変わります。名称は「鋸南エアポルト」。町内外からさまざまな人が集まり、仕事をしながら、新しいアイデアが生まれる場所にしていきます」と運営者の佐谷恭さんは言います。鋸南町に新風が巻き起こるのか!? さっそく訪ねてみました。

10月29日の夜、訪ねてみると、ハロウィンの時期ということもあり、仮装した町内外の人たちが懇親会をしていました。その中の一人が、この「鋸南エアポルト」の運営者である佐谷恭さんです。
「エアポルト」は英語表記で「AIR-port」。AIRはアーティストインレジデンスの略で、portは人々が集う港を意味します。
「アーティストといって、芸術家に限らないんです。自分でやりたいことを選んでいる人たちが集い、働き、情報交換することで新しい何かが生まれる。そんな場所にしていきたいです」と佐谷さんは言います。
佐谷さんは、東京・世田谷で平成19年、パクチー料理専門店「パクチーハウス東京」を立ち上げ、パクチーブームを巻き起こしました。また、さまざまな業種の人々が働く「コワーキングスペース」を東京で初めて作っ

てきた実績があります。今回、鋸南にできるのも「コワーキングスペース」。建物の1階は人々が集うオフィスとして使い、2階は本などをゆっくり読めるスペースとして使っていくといいです。
「町内の人にも活用していただきたいです。例えば、地元で商売をしていた人がいて、そこに東京から来た人が話をしていく中で、新しいビジネスが生まれる可能性があります。外の人との人の視点の融合で、面白いことができるのではないかと思います。」
月に1回は、「鋸南エアポルト」で懇親会を開催し、ディスカッションをする場も設けていくとか。ご興味のある方、ぜひ一度、訪れてみてはいかがでしょうか。
※アーティストインレジデンスとはアーティストが集い住む場所のこと。

被災と 獣害

こんにちは！地域おこし協力隊、有害鳥獣対策担当の黒澤です。

さて、山は倒木が目立ち、思うように歩くことができない、捕獲のためのわなへの接近経路や、けもの道そのものが変化してしまっ

たことは前回書きました。
森の中の地面には、台風で落ちたドングリが目立ちます。野生動物にとつての山で得られる餌は豊富と言つてよいのでしょうか？今後の、冬にかけての山の餌が少なくなれば麓に餌を求めて下りて来るでしょう。しかも集落を囲う集落柵や圃場を囲うワイヤーメッシュ柵、電気柵の損傷が激しいとなると容易に侵入を許してしまうかもしれません。農作業の遅れが言われますが、この防除体制が整わないと対策も効果がなかなか上がりません。悩ましいところです。

例年であれば10月には実施隊による一斉捕獲（巻き狩りによる銃猟）が始まるのですが、今年はまだ実施されていません。

多くの倒木など、あまりの環境の変化により、そもそも猟犬を連れてこれまで通り山を歩ける状況ではない、とか、危険が増さないだろうか？など、また、従来のけもの道の通り道が変わったことで果たしてこれまでのような成果が上がるのか？などと、本格スタートには少々時間がかかりそうです。

狩猟エコツアーで歩くけもの道トレッキングのルート整備に出かけました。倒木を片付け安全に歩けるように足元を整えました。現場は人間の接近が減ったことで、



けもの道トレッキングの道を整備（写真＝黒澤徹）

これまで以上に野生動物の痕跡（イノシシの掘り返しや、シカの食痕、寝床跡など）は顕著に見られました。人間側の圧力が下がれば野生動物が生活圏に近づいてくるという節理を垣間見ました。
先日、各地の集落柵の被害状況調査にも行きました。倒木や崖崩れによる柵の破損など多くの被害が出ています。多くの農家さんが電気柵やワイヤーメッシュ柵を改めて施工しなくてはならない状況です。
多くの倒木や地滑りを引き起こした原因の一つとして言われる山や木の管理も今後の課題かもしれません。何のために獣害対策を進めているのか？という本来の目的を強く意識する日々でした。

情報共有会議 参加レポート

清水多佳子

10月28日、鴨川市の大山公民館で開催された「台風15号災害支援関係者情報共有会議」に参加してきました。この会議では、各市町村の社会福祉協議会や県内外からきているボランティア団体が活動報告をしました。

ここで出された課題は次のとおり、多岐にわたりました。

- ①ボランティアセンター閉鎖後、ニーズへの対応をどうするのか。
- ②台風15号から2ヶ月経過し、県外からのボランティアが少なくなる中、地域や地元の人をどのように復興に巻き込んでいけばいいのか。
- ③また、カビによる健康被害にどう対応するのか――などです。

特に、地元の人がブルーシートを安全に張り直しができるよう、屋根に登り、作業ができる人材の育成が必要であることが議題に上がりました。

地域おこし協力隊としての私の任務は「観光の支援」です。被災の状況を伝え、町が復興していく様子を伝えることも業務の一つなので、災害に関する情報発信もしばらく行っていきます。



情報共有会議の様子（写真提供＝千葉県南部災害支援センター）